

科目区分	基礎分野	履修学年	1年後期	単位数	1	時間数	15
科目名	家族社会学			担当教員	渡邊さか江		
使用テキスト	西野理子：よくわかる家族社会学、ミネルヴァ書房、2019						
テキスト以外の教材・参考書等	岩間暁子：問いから始める家族社会学、有斐閣ストウディア、2023 下夷美幸：家族政策研究、一般財団法人放送大学教育振興会、2021 波平恵美子：いのちの文化人類学、新潮選書、1996						
授業の概要及び到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>家族のかたちは、世界・日本の歴史や文化などによって時代とともに変化していく。現在までの家族の機能、役割、関係性について理解して、個人や社会にとっての臨床の場での家族、生活する場でのこれからの家族のあり方について学習する。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史・社会制度の変化に伴う、家族のあり方を理解する。 2. 近代社会の家族の特徴・意味・役割を理解する。 3. これからの家族のあり方を学ぶ。 							
評価方法	筆記試験						
備考	関連科目：文化人類学, 地域の健康と社会生活 生命倫理 母性看護学概論						

回数	授業計画 学習内容	備考
1	家族社会学の成り立ち 家族をとらえる理論と視角	
2	結婚：理論から家族をとらえる（1） 家事分担：理論から家族をとらえる（2） 子の養育：理論から家族をとらえる（3）	
3	高齢期のケア：理論から家族をとらえる（4） 夫婦間の情緒的關係：理論から家族をとらえる（5）	
4	中期親子関係：理論から家族をとらえる（6） きょうだい関係：理論から家族をとらえる（7） 祖父母・孫関係：理論から家族をとらえる（8）	
5	親になること・妊娠と出産：理論から家族をとらえる（9） 家族支援：理論から家族をとらえる（10） 家族と社会 家族社会学の隣接領域	
6	現代家族をめぐる諸問題へのアプローチ （グループワーク）	
7	現代家族をめぐる諸問題へのアプローチ （グループワーク・発表）	
8	終講試験	